

「第14期生 第1回 友の会 城友会」

第14期（昭和20年卒業）石橋 進

「城商音頭」

第21期（昭和26年卒業）澤 邑 知 明

月初めより梅雨時のような連日の雨、僅かばかりの人数の同窓会だが、全員出席してくれるかなと心配しながら10時半、ホテルの茶室で設営をしていたら、一番遠い横浜市青葉区の辻本勇君と大阪市東成区の高鶴邦彦君と一緒に顔を出してくれ、続いて奈良県生駒郡の東本次夫君が出席、そして何時も記念写真を無料で奉仕して頂いている大阪市中央区の榎利明君も出席してくれ先ずはヒト安心。しかし、男ばかり話しが途切れない様、話題づくりを色々と考えていたが11時から15時までの4時間、男でもこんなに喋るのかとびっくり仰天、積もる話に花が咲くとはこの事だと思つづく感じしました。



又、近況表を配り説明を致しました。特に玖村隆君には一日も早く元気に成られ次回の同窓会には必ず出席される様、一同楽しみにしております。

反面、郵便物が着信しているはずだが、なんらの連絡が無く、生死不明で心配して居ります。それから、学校の田中修先生からご丁寧なお手紙と御祝儀を頂戴いたしました事、報告させて頂きました。毎回、本当に有難う御座います

次回の同窓会 《第2回 平成30年度》

【《92歳クニ》國 寿】

名 称 友の会 城友会 大阪城東商業学校 第14期生
 日 時 平成30年10月15日（月曜日）
 会 場 KKR ホテル 大阪 清芳庵（茶室にて）
 場 所 大阪市中央区馬場町2丁目24号
 電 話 06-6941-2233
 開 場 11時 宴会 12時から15時まで
 会 費 お一人様 1万円
 ※ 環状線 森ノ宮駅下車 送迎バスあり

「業界世界一に“私の勲章”」

第20期（昭和25年卒業）大村 計 治

昭和25年に高校を卒業した大村計治です。中学に入学1年生のときは教練ばかりで授業は殆んどなく、退役軍人五長の安宅先生で、毎日棒でタタクばかりで、恐ろしい毎日でした。

2年生に成ると学徒動員で大阪福島の工場へ毎日通いました。その8月に終戦となり、やっと母校に帰って勉強が始まりました。私は汗をかき、早く遠くへ走り、剛力になることが好きな男でした。中学高校で絶えず行った運動は野球が中心で卒業時には最優秀投手として表彰を頂きました。



大学では突如として柔道部に入部して講道館四段を取得しました。24才の時、印刷会社営業部を退社して急遽焼付塗装の会社を設立し、60年弱で業界世界一の地位を得ました。

我々吹奏楽部出身の楽窓会(吹奏楽部OB会)が、毎年の事ながら昨年11月に上本町で開かれた。

和やかな雰囲気の中、各々在学の頃の懐かしい話に大きな華が咲き、話が尽きる事が無く其の頃の思いに耽っていた。吹奏楽部活動の話題には各年代時代の思い出なども多く特に熱のこもった話で時間の過ぎるのも忘れる有様で、ふと、私が体育祭での城商音頭の話を出したところ、当時の事も商大高校の歴史の一ページなので記録してくれと言われ拙文ながら寄稿させて頂きました。

昭和20年あの忌まわしい敗戦のあと社会は荒廃し、闇市が雨後の筍のように各所に蔓延り、殺伐たる光景の世の中2~3年後、我々の大阪城東商業学校(後、城東高等学校・大阪商業大学高等学校)の体育祭が華々しく執り行われた。

一般的な競技や、クラブ対抗リレーには珠算部は大きな算盤・書道部は直径30センチ長さ3メートルぐらいの大きな筆・吹奏楽部はバス(チューブ)という大きな楽器等々異常な大きな物を担いでトラックを走って人気があった。中でも特記すべきは、学年全員の仮装行列が吹奏楽部演奏の童謡【桃太郎さん】の曲に合わせて入場し、大団円を作り“城商音頭”



の演奏による河内名物の踊りであったのではないか。女装(和装・洋装・女学生等々化粧姿)している者や、軍服姿・武士や雲助、また物乞いの汚れた衣服でのいでたちなど完全に成りきっている光景は在校生徒以外にも保護者や近所の方々も参観に来ておられて大きな声援をおくって頂いて、この日ばかりは生徒・観客共に荒んでいる世間も忘れて大喝采を受けていた。

好評で恒例となり、70年経った現在でもその時の光景が不思議なほどカラーで甦って来るほどインパクトの強い“思い出”として残るほどである。

城商音頭

- ① 城の東に 生駒の西に 聲え立ちたる 我が母校 ソレキタ ドッコイショ
 城商の庭に 城商の庭に 花が咲く 花が咲く
 ソレソレソレ ソレキタドッコイショ
- ② 河内名物 城商まつり 踊らなくては やりきれぬ ソレキタ ドッコイショ
 今日の来るのを 今日来るのを 待っていた 待っていた
 ソレソレソレ ソレキタドッコイショ

3番・4番の歌詞が有るはずですが、忘れていたので、当時居られた先輩でご存知の方が居られれば、教えて頂きたく宜しくお願い致します。

城商音頭

し ろ の ひ が し に い こ ま の に し
 か わ ち め い ぶ つ じ ょ う し ょ う ま つ

に そ ひ え た た る わ が
 り お ど ら な く て は や り

ほ こ う 3 ソレキタ ドッコイショ じょうしょう
 き れ ん ぬ ソレキタ ドッコイショ きょうの

にわに じょうしょうの にわに はな が さく はな が さ
 くるのを じょうしょうの くるのを はな が さい た ま っ て い

く ソレソレソレ ソレキタ ドッコイショ
 た ソレキタ ドッコイショ

「私の中学・高校時代」

第 24 期 (昭和 29 年卒業) 高橋 利夫

立春も過ぎて、高校入試たけなわのある日、入試に向けて最後の追い込みをかける孫から、浦和のじいちゃんの高校生時代はどうだったのかと聞かれて、話す機会があった。以下は、そのときの話である。

私は、昭和 23 年 4 月に城東中学校に入学した。先の大戦後 2 年を経過していたとはいえ、布施駅の東西に闇市が建ち並び賑わっていた。木造 2 階建ての校舎が、時計塔のある本館と L 字形に建っていて、校庭の深く掘られた水溜に歩兵銃が投げ入れられていたのが見えた。肩掛けカバンに編み上げの靴、五つボタンの制服、2 本の白線にあこがれて入学したものの、なぜか 1 本線であった。今では考えられないことであるが、布施駅から河内小阪駅まで 2 駅、電車の連結部やドアの把手にぶら下がって通学したこともあった。

昭和 26 年 3 月、大阪城東大学附属中学校を卒業し、同附属高等学校商業科に入学した。帽子の白線が、2 本線になった。うれしかった。クラブ活動は、音楽部(吹奏楽)で、トロンボーンを吹いた。別に楽器を選び好みで選んだということもなく、残っていた楽器がトロンボーンであったと思う。2、3 年生のときは、夏の甲子園の開会式・閉会式に参加し、記念のベース型のバックルをもらい、甲子園名物のカレーライスに御馳走になったものである。音楽隊の先頭を行進している姿が朝日新聞に載ったものである。

当時、部室は、本館講堂舞台脇の狭い部屋であったが、大学の関係で木造校舎西側の平屋建ての建物に移った。体育祭の前夜に先輩方が集まり、コンクールの練習にも応援して下さるなど先輩方との結び付きが深かったのは音楽部だけのことではないかと思っている。練習の中休みに小阪駅前の「桃太郎」から、力うどんを出前してもらい、みんなで食べた。空腹を抱えて、うまかったと記憶している。青山さん、万福さん、岡田先輩の後を受けて、1 年間、部長を務めた。一度だけ、中之島中央公会堂での演奏会でワルツの大曲を指揮したことがある。

また、平石先生との関係で池田市にある宣真学園(女子校)とのつながりができ、行事の際に互いに往来があった。

音楽部には、楽窓会という OB 会があって、毎年 11 月に上六で会合がもたれる。それには、埼玉から遠路、必ず出席している。ほかに、旧友と 3 人して、一杯やりながら近況報告を交わすのが常である。

クラブ活動では、弁論部も掛け持ちし、近畿一円に遠征したりした。生徒会では、会長も務めた。風紀委員などというものもあって、樟蔭高校との会合があったりしたものである。

2、3 年生では、特待生となり、月謝を半額免除してもらえた。このためには、成績が平均 90 点以上でなければならなかった。S 君、K 君、G 君と競い合ったもので、それなりに勉強したものである。

声楽家の音楽の先生、弁論と人倫を説く国語の先生、暗記でなく歴史の流れに目を向けよと説く世界史の先生、法律の基礎の勉強になった商業法規の先生、人体の妙を説く体育の先生と、後の大学(法律・社会福祉)の学習に結びつくものが高校生時代に植え付けられたものと感謝している。今思うと、楽しい高校生活であった。

昭和 29 年 3 月(今から 64 年前)大阪商業大学附属高等学校商業科を卒業した。校名の変遷の御紹介までに中学・高校生活の一端を記

してみた。記憶の定かでない部分もあるが、御容赦願いたい。

以上が、校歌にある「商都の使命を果た」さないで、大阪府庁から震ヶ関の厚生省(現厚生労働省)、永田町の首相官邸前の総理府(現内閣府。特許庁の近くに弁理士会があり、その副会長であられた安田敏雄先生が、立ち寄ってくださったことがある。)に勤めた者の中学・高校時代であった。

「人生、どこにいても勉強！」

第 53 期 (昭和 58 年卒業) 東野 義晃

新年を迎え、2018 年 1 月 無事に誕生日を迎えまた 1 つ年齢を重ねました。そろそろ 50 代の半ばを迎えます。数年前から、記憶力の減退(若い時から、そんなに記憶力ある訳では、ないのですが。冷汗)に心の中で葛藤がありました。

1988 年に大学を卒業してから、現在まで旅行業に従事していますが御縁があり、2014 年に母校(大阪学院大学大学院 国際学研究課程)にて、仕事と兼業で、「格安航空会社が国内航空にもたらす影響。」のテーマで入学許可され、2 年間の修行?の後、2016 年春無事に修了。「国際学修士」の認定を受けました。何故か?首席卒業のおまけまで、つきましたが。苦笑。

卒業後は、入会許可された日本比較生活文化学会、日本国際観光学会でともに研究大会に参加。先輩諸氏の論文読みながら自分なりに研究を継続。論文執筆して各学会事務局へ投稿の活動をしています。

昨年秋、まさか?の事態が発生。それは日本国際観光学会の季刊誌に論文が掲載。初めて活字になりました。そして、11 月比較生活文化学会の、研究発表大会では、研究発表デビューをしたのです。恥ずかしながら、研究者の入り口に立ちました。指導教官には、まだまだ認められてませんが。苦笑

一昨年、大学を出た時はもう戻る気持ちはなかったのですが、不思議なもので自分の作品が、活字になりまた研究発表できる様になると、レジメが諸先輩に渡ります。すると、もっと自分の執筆レベルをスキルアップしたくなりました。

指導教官と話して、色々打ち合わせした結果、今年の秋から再度大学院に、復学して「国際学博士課程後期課程」に入学(予定)。そして、論文作成レベルの向上。ゆくゆくは学位(博士)取得を目指そう!考えています。

高校時代の記憶は、正直あまりありませんが担任の、堀井前校長や社会担当の田中 修先生の講義は好きだったから、良く前向きに聞いていた記憶あります。

対して、藪田先生の数学は、理数系が苦手だったから苦痛だったかな?(藪田先生 ゴメン ナサイ)

どちらか?言うとな績は良くない生徒でした。でも、人生幾つになっても勉強はできます。昔から私の口癖は「Try and Error!」まずは、挑戦です。

(校友会常任幹事)



日本比較生活文化学会 前列左端 筆者